

保育所等訪問支援事業 事業所における自己評価（公表）

公表 2025年4月28日

事業所名	一般社団法人わおん			
保護者評価実施期間	2025年 1月 10日 ~2025年 2月 28日			
保護者評価有効回答数	対象者数	64	回答者数	24
従業員評価実施期間	2025年 1月 10日 ~2025年 2月 28日			
従業員評価有効回答数	対象者数	2	回答者数	2
訪問先施設評価実施期間	2025年 1月 10日 ~2025年 2月 28日			
訪問先施設評価有効回答数	対象数	39	回答数	19
事業所自己評価作成日	2025年 3月 10日			

分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校への対象の子どもの理解についての専門的なアドバイスを行えた。	関係する複数の先生方への子どもも理解や学校生活での具体的な支援の方法、教材の工夫などについて話し合ってきた。	学校によっては、校長や教頭が一緒に話の場に入る場合もあった。今後は学校の管理職も話の場に参加することが望まれるだろう。
2	保護者への相談にはその都度応じて、保護者との子どもも理解を共有できていた。	保護者の希望に応じて知能検査その他の検査を行ってきた。また保護者に検査の必要性を伝える場合もあった。	保護者との教育相談を訪問支援の中で何度か行った。両親との相談をはじめ、学校といっしょに行う教育相談も今後はさらに増やしていきたい。
3	学校側の指導や対応のあり方、そして保護者が学校に要望している内容を専門的な視点から整理し、それぞれが納得できるような支援や課題設定のあり方を提案してきた。	学校での具体系な支援や課題設定だけでなく、家庭での取り組みについても具体的に提案を行ってきた。	学校や家庭での取り組みの提案に対してのフィードバックが充分に行えていない。そのようなフィードバックの機会を定期的に持つて行くことはよいだろう。
	保育所等訪問支援事業と関連して、必要に応じて保護者ならびに学校の担当者も交えた教育相談を多く実施してきた。	相談支援は必要に応じて担当者会議を行っている。保育所等訪問支援事業で実施した教育相談は、保護者と学校側の共通理解をいっそう図り、家庭と学校の協力と連携を進めていく方向で行った。	対象の子どもに課題が見受けられる時点での教育相談であった。定期的に実施していくこともよいと思われる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問員の人数が足らない。その人数に対して利用者が多い。そのために、訪問回数が少なくなってしまっていた。	困難を抱える子どもや保護者、そして学校への支援等、そして学校と利用者との間に立ち、よりより関係性が育ち、いずれもが成長していくために、専門性と専門的知識を持った訪問員の数の確保あるいは、その育成が求められる。	訪問員の専門性や専門的知識を高め、学校という場での学校を理解したうえでの先生方とのやり取り能力を育っていく。
2	訪問員は専門的な知識や専門性を持つことが必要で、訪問員間での研修が大切となる。	訪問支援の内容を充実し、いっそう専門的な視点を入れていくことをめざしていること。	訪問員間での研修を行っていく。